神奈川県の外国ルーツの学生が後輩のために作った「多文化ユースプロジェクト」活動報告

OG・OBメンバーが後輩に伝える「日本での立ち位置と生き方」の共有

多文化ユースプロジェクト

高橋：改めまして高橋です。よろしくお願いいたします。私から多文化ユースプロジェクトの簡単な紹介をしたいと思います。私どもの団体、ME-netの若者交流とか、高校生向けの進路体験発表とか、さまざまな活動を通じて外国につながる子どもたち、生徒の支援に当たってきたメンバーがつながり合って、この多文化ユースプロジェクトが誕生しました。

活動は多岐にわたっていて、クオリティーも高く、これが日本のこれからのイノベーションとか、SDGsにつながると支援者である私には見えているのですが、本人たちはそういうつもりではなくて、本当に純粋に外国につながりのある後輩のためにという気持ちで活動しているところをぜひくみ取っていただければと思います。では、自己紹介を1人ずつお願いします。

わん しーしぇん
王 希璇
中国
多文化ユースプロジェクト代表
宇都宮大学卒、横浜市立大学大学院卒

ナイム サード ビン
パキスタン
有馬高校（在県枠）卒、帝京大学卒
有限会社友元機械営業

しぇいく ふじはら あいしゃ
星玖藤原 愛紗
日本生まれ、ペルー&パキスタン
座間総合高校卒
桜美林大学リベラルアーツ学群卒

やま ざき
山崎 ラジャン バレンシア
フィリピン&インド
多文化ユースプロジェクト副代表
WEBエンジニア、ME-net理事

さ さ き せいしょう
佐々木 聖曌
中国
鶴見総合高校（在県枠）卒、神奈川大学卒
横浜市中区役所勤務

たか はし せいじゅ
高橋 清樹
福島県生まれ、秋田県育ち、横浜在住
認定NPO法人 多文化共生教育
ネットワークかながわ(ME-net)事務局長

王：皆さんこんにちは、多文化ユースプロジェクトの代表をしております、中国につながる王希璇（わんしーしぇん）と申します。大学院を卒業してことし社会人1年目です。よろしくお願いします。

愛紗：皆さんこんにちは、星玖藤原愛紗（しぇいく　ふじはら　あいしゃ）と申します。日本で生まれ育ちましたが、ルーツはペルーとパキスタンで、ことしの3月に桜美林大学を卒業して社会人1年目です。よろしくお願いいたします。

佐々木：皆さんこんにちは、佐々木聖曌（ささき　せいしょう）と申します。2011年中国から来ました。日本の高校、大学を経て、今は横浜市中区役所で勤務しております。よろしくお願いします。

サード：皆さんこんにちは、ナイムサードビンと申します。出身国はパキスタンで13年前に日本に来ました。今は有限会社湯本機械に勤めしております。よろしくお願いします。

バレン：山崎ラジャンバレンシアです。2010年に来日しました。フィリピンとインドのルーツを持ちます。現在、WEBエンジニアとME-netの理事として勤めております。

高橋：改めまして高橋です。私は日本生まれですけど、父の仕事の関係で日本いろんなとこを転々としました。そんな自己紹介をさせてもらいました。よろしくお願いいたします。

バレン：では本日の流れから紹介します。
1番目に「**私たちの出会い**」、2番目に「**こんなことを高校生と対話してきた**」、3番目で「**日本で生き方についての情報を伝えたい**」、4番目に「**ウェブ活用でさらに役立つことを目指す**」、5番目に「**最後に伝えたいこと**」を発表していきたいと思います。初めに「私たちの出会い」について、サードさんからお願いします。

サード：はい、私たち5人は、さまざまなルーツを持ち、さまざまな国から来て、ここにいます。そしてここには来られなかったメンバーもいます。学生時代に集まったきっかけは私たちが悩んでいたことや苦労したことなど、大学や高校に進学して、日本と母国のパキスタンが全然やり方が違うように、そういった「高校生、大学生、短大生、専門学生の悩みを解決してあげよう」という思いで活動してきました。

　そして今画面に見えている進路ガイダンスの写真のように、高校生を対象に大学の相談会で大学はどんなところなのか、母国と何が違うのか、どのように授業を取ればいいか、そもそも大学をどのように選べばいいかということをアドバイスする場です。

　生徒だけでなく、外国につながる生徒を教えている先生のためにもなる会でもあります。何故かというと、私のときは、パキスタンから来た生徒がすごく少なかったので、言語が分からない上にどのように対応すればいいか、また文化や宗教についても分からなかったため、先生は自分をサポートするのにかなり苦戦していたと思います。

　私が一番感謝しているのが、日本の先生たちはすごく一生懸命に外国につながる生徒のために頑張ってくださっていることです。現在、先生の支援ができて、先生の悩みも解決ができればいいと思いガイダンスを参加しました。どのような進路ガイダンスを行なっているかは後ほど説明します。私からは以上になります。次は、愛紗さんお願いします。

愛紗：次は**オルタボイス**について説明させて頂きます。オルタボイスの言葉の意味は「**もう1つの声**」です。こちらのイベントは年に3回行っていて、**オルタボイスフェスタ**(現在は開催していません)、**オルタボイス交流会**(6月)、**オルタボイスキャンプ**(11月)を行っています。神奈川県の外国につながる生徒が参加します。OBOGもサポートしています。

　私が初めて参加したのは高校1年のときで、学校の先生に誘われて、国際交流がしたいなと思い、軽い気持ちで参加しました。しかし、参加してみると、写真にあるように皆との料理とゲームがすごく楽しかったですが、夜になると急に真面目な話が始まって、「**将来の夢は?**」「**何になりたいの?**」や「**学校でいじめられたことがある?**」という深い話を話しました。**私は小学校の頃いじめを受けていたのですが、誰にも話したことがなくて、そこで初めて自分の経験を話すことができて、すごくスッキリしました。**

　そこで大事な仲間にも出会って、自分の居場所も見つけることができたので、私にとってはすごく大切な場所となっています。次に王さん、お願いします。

神奈川県の外国ルーツの学生が後輩のために作った「多文化ユースプロジェクト」活動報告
OG・OBメンバーが後輩に伝える「日本での立ち位置と生き方」の共有

王：はい、メンバーはこうやって色んな繋がりの場とかやイベントに参加して、出会いました。このようなイベントを通じて、感じたことはやはり提供された場だけでなく、私たちがこれから日本で共に生きていく上で必要なことなどを踏まえて上に、自分たちで動き、自分たちの生活を切り開いていかなければならないと感じています。

最初のイベントは「**しゃべり場**」でした。先ほどお話ししたオルタボイスは、みんなが集まってゲームや料理や、悩みを話したりしますが、高校生のみが対象のため、もう大人になった私たちは目に見えるものもまた違うだろうし、日本で生活している上で感じているものが変わってきています。

その中で私たちが集まって、現在どういうものにあっているのかとか、これから日本でどう生きたいのか、どういう風に社会を変えたらいいのか、私たち今できることをそうやって日本人の子も含めて、そういった多様なルーツを持っている子が集まって喋れる「しゃべり場」というイベントを始めました。

では何故こうやって最初に多文化ユースプロジェクトというところで始まったというと、やっぱり先ほどサードの話も出てきましたが、悩みはライフステージによって変化していきます。最初に日本に来たときはもちろん、日本語の習得が一番初めの壁になってきます。進学した後に就職その次に家庭を持って、子どもが生まれたりとか、さらに年齢が進むとまた違う悩み、介護や老後生活の話だったりとか、そういった悩みが変化していくわけです。それらを踏まえるとただ学習支援に頼るというのはどうしても限界がありますし、そういったところでそれぞれのライフステージの悩みに対応できて身近に相談できる相手、そういった相手になれるのが多文化ユースプロジェクトであって欲しいというのが最初の想いです。

その中で繋がりというところを大切にしていきたいです。どうしても卒業して就職すると社会に埋もれていく部分もあると思います。**高校生や大学生だったら、先生または先輩に相談できたりはします。しかし、1回社会に出たら、1~2年目だったらもしかしたらまだ相談できるかも知れませんが、5~10年経ったら、おそらく皆は自分の生活を持っていて疎遠になります。**そのときの新しい悩みの相談相手が必要と思ったりもします。

その中で多文化ユースプロジェクトは、新しい形の繋がり、同世代の横のつながり、先輩と後輩の縦のつながり、どんなときでもそういったライフステージも相談相手になれることこそ集住地域や散在地域の話とも繋がります。

後ほど紹介しますが、WEBでの活動なども、先ほどの話にも繋がるのなのかなと考えておりまして、繋がりを大切にしつつ活動していきたいなとは思っております。ではこれからどんな話を高校生と話してきたのかを少し紹介させていただきますので、バレンさんお願いします。

バレン：はい、王さんありがとうございます。では次に「こんなことを高校生と対話してきた」について佐々木さんお願いします。

佐々木：はい、お願いします。こうやって私たちが出会ってから、多文化ユースプロジェクトに所属しながら各自の活動を始めました。先ほど高橋先生のとき、「**在県枠**」という言葉が出ましたが、私は在県枠です。神奈川県の外国人を特別募集する枠を使って高校に入ったわけですので、自分が卒業した後に、後輩たちはどのような生活を送っているか、すごく興味を持っていて、1回自分の母校、県立鶴見総合高校に戻りました。そこで後輩たちをしっかりと支えないといけないなという気持ちが湧いてきて、そこから後輩たちと接し始めました。

神奈川県の外国ルーツの学生が後輩のために作った「多文化ユースプロジェクト」活動報告
OG・OBメンバーが後輩に伝える「日本での立ち位置と生き方」の共有

接した限り、私なりの見つけた要因または課題が2つあります。まず**日本語をはじめとした勉強の意欲が後退しています。**理由としましては、いろんな外国につながる子どもたち、高校生たちと接してきたところ、その中でやっぱり日本にそもそも来たくもないのに日本に来ちゃったということが、その勉強したくない一因になります。

というのも遊びの気分で日本に来たにもかかわらず、**親に止められて、「あなたはあのようなことをしたから来月から日本の学校に通いましょう」といきなり言われ、そもそも来たくもないのに「何で日本語を勉強しなければいけないだよ」という気持ちになりました。**

さらに日本語の必要性を感じないというか、これは主に日本にいる外国につながる外国人の母数が大きい国、地域からの子がよく見られる傾向です。例えば、中国人ですが、在県枠を使って入れた中国人が少なからず同じ学年で何人かいるはずです。彼らはグループで固まってしまい、そのグループ以外との交流は全然しないです。

日本語は分からなければ、そのグループの中に日本語が得意な人から訳してもらえばいいだということで、せっかく日本の学校にいたにもかかわらず、日本語をまったく使わない。その後、家に帰ってもなかなか日本語を使う場面がなくて、アルバイトをやってもそれなりの高いレベルの日本語は必要としない。その結果、日本にいたにもかかわらず日本語を使わなくても生活できるということを彼らが思っていて、だから日本語はさら勉強しなくなります。

あと3つ目の「**家庭環境にも恵まれていない**」と、4つ目の「**在留資格による不安定な生活**」、これらも多分1つになると思います。というのも親は在留資格のために働いているわけです。あとはお金稼ぐために働くわけですので、皆さん家に帰っても常に1人の状態になってしまいます。1人でご飯食べて1人で寝る、1人で勉強するなど常に孤独な生活を繰り返しています。

さらに、何人かの外国につながる高校生から在留資格に不安があるという話があります。在留資格については日本の大人はおそらく聞き慣れた大人がいれば、そもそも聞いたことない大人もいるわけです。高校生のうちに在留資格を気にかけるというのも、彼ら自身で在留資格はいかに重要なものか理解できると思いました。

在留資格は親の方に付随しているわけですので、親の方が安定しないと子どもも安定しない生活を送ってしまいます。そのような理由で日本語をはじめとした勉強の意欲後退に繋がってしまいます。**さらに、最近よくある傾向ですが、自分の将来または進路については方向性を失ってしまっています。何をやればいいのか、将来は何になればいいのかということが分からない子どもたちが増えてきていて、私はすごく問題視しています。**はい、私は以上です。次はサードさんお願いします。

サード：はい、ありがとうございます。私からは2点話したいことがあります。1点目は教育現場で働く方々に聞いて頂ければなと思います。大学時代、通訳として何校かに行ってきましたが、そこで一番に思ったことは、**通訳に生徒のことを丸投げしていて、生徒のことはすごく可愛そうに思いました。**

それは何故かというと、まずそもそも日本にも来たくなかったが、気付いたら日本から出られなくなりました。例えば、親から夏休みだから「皆で日本を観光しよう！」という風に言われ、そのまま日本で住むようなことになった生徒がいます。帰国して会えるはずの友達が会えなくなった上に、いきなり日本の学校生活が始まります。こう言った理由で勉強に対する意欲は生徒にはありません。

私は通訳者としてはもちろんサポートするために来ていますが、あくまでも「言語」のサポートです。日本語でわからないことをわかりやすく説明しています。私も彼らと同じく生徒でもあったので昔の悩みと重なるところはアドバイスできますが、そこまでしかできません。

神奈川県の外国ルーツの学生が後輩のために作った「多文化ユースプロジェクト」活動報告
OG・OBメンバーが後輩に伝える「日本での立ち位置と生き方」の共有

私がいないときも彼らは授業を受けています。先生からも何も言われず、プリントだけ渡され「はい、後は勝手にやってください」っていう風に扱われています。こういったことで学校に登校しなくなるまたは学校を中退する生徒はどうしても出てきます。

その先のことを言うと、学校に行けてないので大学にも進学できずに仕事をやり始めています。理想として、仕事は高校を卒後してからやって欲しいですが、高校を中退して仕事をやると中々希望にあった仕事に就けず、将来が不安定のまま日本で生活しなければなりません。そういった理由で生徒本人は可哀想ではないかと思っています。

それを解決するためには**学校にいるうちにそういった生徒をしっかりサポートしなければなりません**。その方が生徒の将来は良い方向に進むと思います。支援者、先輩や通訳者はできる限りサポートしますが、やはり鍵となるのは先生です。40人いる中で1人に集中するのはとても大変だと思いますが、そこを何とかしないと、生徒の将来が大きく左右します。

もし可能であれば放課後1時間を彼らに時間をあててください。1時間が無理なのであれば10分でも良いので「何か分からないことがある?」「聞きたいことある?」などジェスチャーや通訳のアプリとかでも良いので聞いてあげてください。

2点目としては「アイデンティティー」です。日常ではなかなか聞かない言葉、むしろ私も大学生になるまでは一切考えたこともない言葉でした。アイデンティティーというのはそもそも何なのかと疑問に思う方もいると思います。私の理解では「自分はどういった者なのか、何をすべき人なのかというのか」というのを分かった時点で自分のアイデンティティーを理解できていると考えています。

私の場合、アイデンティティーがサードであり、パキスタンから来たイスラムの宗教を持っています。これをあまり意識せずに日本に来て、日本という国の文化に染まってしまい、母国のことを忘れた上に、同じ宗教の人もいないから、宗教のことも忘れていたこともありました。

ただそれが悪いわけではなく、自分を見つめ直すことができました。「自分は一体何者何だ？」「自分はアイデンティティーを持っているのか？」と悩む時期がありました。大学2年のとき、その悩みを抱えていて結構苦労しました。その答えが分かった時点、「よし！将来、私これをやりたい！」とすごくこれ先の人生の決断が楽になったと実感しました。

宗教、言語と名前の面でも日本語の名前に変えると自分のアイデンティティーを疑問の思うことが多々ありますが、それを乗り越えることで将来的にも強い意志を持って日本の生活できます。今なら誰かに「何者なのか?」と聞かれるとスムーズに説明できます。私からは以上になります。バレンさん、お願いします。

バレン：はい、サードさんありがとうございます。では「日本での生き方について情報を伝えたい」について愛紗さんからお願いします。

愛紗：はい、まず初めに自分の自己紹介を軽くしたいと思います。星玖藤原愛紗と申します。私はペルー人の母親とパキスタン人の父親を持ち、日本で生まれ育ちました。在留資格は永住者です。幼稚園から大学まで日本で教育を受けて、今年3月に桜美林大学を卒業しました。現在は多文化共生教育ネットワークかながわ(ME-net)で事務のお手伝いをさせていただいております。

神奈川県の外国ルーツの学生が後輩のために作った「多文化ユースプロジェクト」活動報告
OG・OBメンバーが後輩に伝える「日本での立ち位置と生き方」の共有

多文化ユースプロジェクト

これから2つのお話をしたいと思います。まず1つ目は、私がペルー人とパキスタン人として日本で生まれ暮らしていく中で、「自分は何者だろう」って疑問に思ったことです。何故それを話したいのかというと、私と同じように日本で生まれ育った外国ルーツの子どもや、小学生のときに日本に来日した子どもなども、自分のアイデンティティーは何だろうって悩む人は少なくないと思うからです。

私もそうだったのですが、小学生のときに学校でスペイン語を他の生徒と話していたら、「**スペイン語を話すな**」と言われたことがありました。それは昔だからそういう理解がなかったのかなって思っていたのですが、外国につながる子どもたちに勉強を教えるボランティア活動をしていく中で、今でもそういう問題があるっていうことに気付いて、それによって**自分の母国語をもう話さないという子どもたちも中にいた**ので、それはとても大きな問題だと感じておりました。

「**自分は外国人で皆とは違う**」と強く感じたエピソードについてお話ししたいと思います。それは小学校1年生のときで、同じクラスメイトの男の子に、「**外人自分の国へ帰れ！**」言われたことでした。**そのときに私は「どこに帰ればいいのだろう」**と思いました。ずっと日本で生まれて、1度もそのときはまだ海外に行ったことがなかったので、**自分の居場所がない**ようにとても強く感じました。

高校生になってから国際的な高校に進学したいと思って、座間総合高校に進学しました。そこでオルタボイスキャンプを紹介され、色んな国につながる生徒とアイデンティティーについて話していく中でずっと悩んで、何か日本には外国人という枠とハーフという枠しかないような感じがしていたのですが、最終的な自分の答えとして、別にその枠に当てはまる必要性はないなと感じて、そこから**私はペルー人であり日本人であり、パキスタン人でもある**という答えを出すようになりました。

次にお話しする内容は、「外国籍で日本に暮らす上で苦労していること」と「外国につながる高校生には何が必要なのか」を話したいと思います。私は高校生になってから、みんなも同じだと思っていましたが、アルバイトを始め、外国籍という理由で断られ、中学生から参加したかったJICAの青年海外協力隊も、**外国籍という理由で応募すらできない**ということを知って、とてもショックを受けました。それ以外にも物件探しをするときも、「**ペルー人はうるさいから駄目**」って言われたこともありました。

私には夢が2つあります。1つ目は日本で在日外国人の役に立つ人になりたいというのと、もう1つは途上国で学校へ行けない子どもたちの数を減らすということです。最近就職活動をする中で、語学学校の事務のお仕事に応募した際に、外国籍はお断りしておりますって言われてしまって、今でもそういうことがあるのかと思って、これは語学学校なのに日本人の人じゃないと駄目なのか、とてもショックを受けました。

結構外国ルーツだからという理由で、あまり勉強面で付いていけてないって思われることも小学校から結構あって、それは良くないなと思って、それで夢を諦め、あなたはできないと言われるから、ますますできなくなって、その結果、将来肉体労働しかできない生徒も多くいます。

その後輩たちに勉強を諦めずに頑張ってもらうには、そういう奨学金制度を充実させることや、ロールモデルが重要だと思っていて、多文化ユースプロジェクトの先輩たちの体験談を聞いて、「私も先輩たちのようにできる！」と高校生に感じてほしいです。

奨学金制度を借りようと思ったときに、在留資格の条件を満たしていないことが理由で日本での進学を諦めて自分の国に帰って、肉体労働する生徒も結構いて、これはとてももったいないなと感じています。せっかく母語と日本語を両方話せるので、彼らに母語の維持と専門的なことができるようにサポートすれば、日本もどんどん伸びていくと思います。はい、これで以上になります。ありがとうございました。次に佐々木さん、お願いいたします。

佐々木：はい、大学卒業した後、私は公務員になりました。外国籍で地方公務員になったというのもあまり聞いたことがないと言われています。「そもそもなんで公務員になったか」と良く質問されます。1つとしてはやっぱり大学の4年間はずっと外国につながる子どもたちの支援とかサポート活動を続いていて、その中で現場に来ている行政の人たちはなかなかいないなということがすごく気になりました。行政の人たちで何をしているかなということをすごく質問としたことを覚えています。

なので、今度自分が行政の中に入り込んで、その公務員たちが何を考えているかなって探ろうかなということで、公務員の試験に受かって横浜市の公務員になりました。公務員になった後に気付いたことが2つあります。1つはやっぱり我々の存在がまだまだ知られていないなということがよく分かりました。
というのも外国人がたくさんいるよという事実だけ知っている人が多くて、その中に、じゃあどういうことに困っているのか、あるいは外国につながる子どもたちの実情というか現状については、あまり知られていないなということがすごく分かりました。

というのも外国人がたくさんいるよという事実だけ知っている人が多くて、その中に、じゃあどういうことに困っているのか、あるいは外国につながる子どもたちの実情というか現状については、あまり知られていないなということがすごく分かりました。

そこで周りの人を巻き込んで、実は外国につながる子どもたちがこういうことだよということは最近というか、公務員になってからし始めました。あとやっぱり外国人として公務員になったわけですので、私の職場は窓口職場です。毎日窓口で立たされて、いろんな市民さんとやりとりしますが、やっぱり先ほどの学校で差別的な発言を同じように受けました。

私の場合は窓口で外国人だから、「**あんたの対応要らないよ**」ということを言われるし、電話でも普通に、「**日本語下手だからもう日本人に代えてくれ**」という風に言われました。「色んな人がいるのか」ということでいつも自分を慰める手段として、自分の心の中に言い聞かせています。

その中でやっぱりお客さまなど外からの圧がすごく高くて、高圧的なことが多くて、その場合は周りにフォローしてくれた同僚とか先輩の存在がとても大きいな支えとなりました。公務員という職業だけじゃなくて、外国人がこの日本社会の進出について、大学とか学校を卒業して、これから日本で働きたいという外国人、あるいはすでにもう企業の正規職員として入っている外国人が、周りのフォローがないととても乗り越えることが難しいとすごく感じました。**周りの支え合う大切さ**がとても大事だなってよく分かりました。はい、私は以上です。次は王さんお願いします。

王：はい、私のタイトルは、「普通に生きるとは何か」って何かすごい大層な名前を付けてしまいましたが、本当に普通の話にはなります。先ほどのメンバーからの話もあったように、日本で普通に生きるというのはどういうことなのか。最後に結局誰でいたいのか、そういったアイデンティティーの話にもなってくるかなと思いますし、自分はどうしていきたいのかというところなのかなと思います。

正直私は中学校で日本来て、とにかく目立ちたくなくて、大学は宇都宮の方に進学しましたが、そこでやっぱり散在地域に近いような形で、ほぼ外国人はいません。ところで名前を名乗ると、「外国人だ！留学生か？」「違います」や「じゃあハーフですか？」みたいなやりとりがすごく多いです。**そのときに通称名付けようかなってすごく思って**、1回実際市役所に行って、「**その名前で生きてきた証拠がないから付けられないですよ**」みたいな感じで、「そうか」って**ちょっとショックを受けて帰りました。**

ある意味その通称名を付けようかなって、今の名前をある意味やめようかなというふうにも捉えられるかなと思います。多分当時の私は、普通に日本人と溶け込んで、日本人として生きていきたかったのかなと思います。

大人になった今は違うんですけれど、例えばオルタボイスだったりとか、大学に入ってのアイデンティティーということについて考えたりとか、自分はどういう存在なのか、私「王希璇」はどう生きていきたいのかというのを考える機会は人それぞれどこかのタイミングが来ると思います。そのタイミングは積極的にもし作っていければ、子どもたちももっと早い段階で何か色々自分の将来についても考えられると思います。

2番目の「選択肢の有無」についてなんですけれども、さっきのアイシャさんのJICAの話のように、自分も教員の免許持っているので、ただ日本で教員になるというのは、常勤講師というのがおそらく一般的です。管理職に昇格できないという制限があります。

もしかしたら選択肢が奪われているという部分にも捉えられるだろうし、そういう中で普通に生きるというのは、正直自分はこの中で特に答えはありませんでした。でもさっきの話を色々聞いて、普通に生きるというのが、普通に夢持てる、人並みに夢持てる、やりたいことが駄目だよと言われることなく、一般的に好きなように自由に、そういう成長とか選択肢持てることが、普通に生きると思います。

それと伴って、こういった社会の受け入れというのはどういう風になっているかというと、さっきの佐々木くんの話もありましたが、そういった認知度の部分は正直みんなに知られたいというか、みんなが知っているような存在になるまでは、多分おそらくまだまだ先の話なのかなと思います。神奈川や東京、本日来られているまた視聴してくださっている方だったら、こういった私たちの存在も知りたいとか、もうすでに知っている方だと思いますが、そういう人たちには本当に感謝しています。

認知度を上げるにはどうしたらいいのかというのも、正直自分たちの模索しているところではありますし、認知度上がったら何が変わるのかも、正直それも将来の話にはなってくるかなと思います。

自分も実際、今、社会人1年目で営業として働いていますが、お客さまと話して、会社内でというのが、本当に自分が外国人だと感じることがほぼなくて。それはいいのか悪いのか、日本での生きている正解なのか違うのかというのは、おそらくその話聞いて全然捉え方が違ってきます。

もちろん自分の中でもっと自分のアイデンティティー、国の特色を生かしていきたいという気持ちもあります。でもそれはどういう形で実現できるのか、もしかしたらこの話も実現している部分なのかも知れないです。

ただそういった子どもたちの支援をしていく上で、こういった子どもたちのその夢とか、実際の子どもたちがどういう存在なのか、そういう子どもたちが自分たちの存在をどう認識して、これからどうしていきたいのかというところも含めて、そういったもっと深いところも含めてどんどん聞いて、どんどん追求していきたいなとは思います。あと支援者の皆さまにも、ぜひそういった話一緒考えていければなとは思っています。

最後にそういった自分の活動たちのウェブサイト活用についてちょっと紹介したいなと思いますので、バレンさんお願いします。

神奈川県の外国ルーツの学生が後輩のために作った「多文化ユースプロジェクト」活動報告 OG・OBメンバーが後輩に伝える「日本での立ち位置と生き方」の共有

バレン：王さんありがとうございます。では次に「ウェブ活動でさらに役立つことを目指す」について、私から発表していきたいと思います。これから紹介するシステムは、私がゼロから開発しました。全てを説明することはできませんが、部分的に説明させていただきます。

初めに今まで多文化ユースプロジェクトが公開した人気の記事を紹介していきたいと思います。最初に、「日本に移住する外国につながる若者に対するコロナウイルスの影響のアンケートの結果報告」です。その次に「外国につながる高校生のための進路体験のまとめ」です。そして、「外国にルーツを持つ生徒対象の入試の一覧」です。

次のスライドは私たちがME－netと協力して食糧支援の様子になります。こちらの食糧支援は外国につながる若者とその家族を中心に支援していました。

今まで多文化ユースプロジェクトを運営する上での課題を紹介していきたいと思います。まず初めに**コロナ禍**です。先ほど紹介したようにしゃべり場など、今まで多文化ユースプロジェクトはイベントを開催してきましたが、残念ながらコロナ禍によって中止せざるを得ませんでした。先ほどの写真のように、今まで皆で集まって議論し合うことはやっていましたが、こちらもオンラインでやることになりました。

次に**時間**です。ほとんどのメンバーは大学生、短大生と専門学生なので学業優先で時間が制限されています。

最後に**コンテンツの可読性**です。可読性とは「読みやすさ」という意味です。こちらは今まで公開した記事が多言語、またはやさしい日本語ではないということで来日したばかりの生徒には読めないという大きな問題がありました。

次のスライドでコンテンツを実際にふりがなを振る作業になりますが、「明日」を「あした」から「あす」、「色紙」を「いろがみ」から「しきし」、「故郷」を「こきょう」から「ふるさと」に変えることによって、そこで正しい読み方に変えることができます。この場合は意味はどちらも同じですが、人の名前や特殊な読み方の場合に役立ちます。**ただ自動化してコンテンツを公開するのではなく、間に編集できる機能を入れること間違った読み方の拡散を防げます。**

こちらは「分析システム」でありまして、初めて読まれるユーザーに必ず言語を選択させています。どの言語が選択されたのかを紹介していきたいと思います。最初に**日本語が75.1%**、**英語が11.9%**、**中国語が7.1%**、**その他の言語が5.9%**です。分析結果で分かるとおり、**4人に1人は多言語で読まれている**ことが分かりました。

この結果は多言語のシステムを開発しない限り分からなかったですが、多言語で発信することの大切さを改めて考えさせられました。これからも益々多言語で読まれる割合は増えると考えています。

このシステムは大学在学時から開発してきました。大学の領域外なので開発の仕方は誰からも相談できなくて、一人でパソコンを一日中見つめながら機能を新規開発やバグ修正、ときにはユーザー体験を向上させるために最新技術を導入して全システムをやり直したりもしました。頂いた助成金とアルバイトの給料で毎月のサーバー代も払いました。試行錯誤を繰り返した結果、人々に使いやすいシステムを開発できた上に自分のキャリアにも大きく響きました。

私が若者に伝えたいのは、自分と他人、両方に役立つ目標を決めて、できるようになるまでやり続けてください。小さなことから今すぐ実現してください。失敗したとしても10~20代の失敗は大きな財産なります。

最後は皆さんが「最後に伝えたいこと」を高橋先生からお願いします。

高橋：はい、皆さんありがとうございました。いろいろ話の内容がすごく深くて、改めて本当にいい話を聞いたなと思います。これから皆さんに、私たちの願いを話してもらいたいと思います。まず1番目、支援者の皆さんに向けて、「何故そう思ったのか」という問い掛けをもっと聞いてほしいですか。これは王さんからお願いします。

王：はい、何故そう思ったか、もっと聞いてほしいというのが、さっきの話ともつながるんですけれども。**その子がなんでそういう選択肢をしたのか、何故その夢持ったのか、何故その進路にしたのかというのを、その背景であったりとか、もう少し深掘りして聞いたら、もしかしたら違う答えが出てくるかもしれない**ですし、もしかしたら、ちょっと家庭のことだったりとかも、いろんな背景あるかもしれないので知る意味でも、何故そう思うのというのを一緒に考えて解いてほしいなって思います。

高橋：はい、ありがとうございます。支援者的にはね、何故思うって聞くのはね、ちょっと困らせているような感じにならないかなって気がするが、その辺は聞かれたときはどうですか。

王：そうですね、興味を持ってくれているというのはまず感じるかなと思いますし、そこで私、**一緒に考える機会を増やせば、その子も1人でこれからいろいろ考える力にもつながるだろう**し、ちょっと困らせているかもしれないですけれども、ぜひ一緒にという意味で。

高橋：そうですね、やっぱり支援者の人に向き合ってほしいと。

王：そうですね。

高橋：そういうことですね。はい、じゃあ次は、どうぞ。生徒の皆さんへのメッセージで、アイデンティティーを忘れないで、サードさんですね。どうぞ。

サード：アイデンティティーを忘れないでというのは、先ほども言ったように、これは私にとってはすごく大事だったことかなと思います。これが分かれば将来のいろいろ大変なことたくさんあると思うので、その中でこれだけをちゃんと若いうちにやっとけば、多少ストレスは減るかなとか、悩みは減るかなと思いまして。

私は大学時代に**自分のアイデンティティーをはっきりとして、誰かアイデンティティーは何とか、自分は何かと聞かれたら、ぱっと言えるように**はしました。これも皆さんももしやれば、学生も大人もやれば、何かちょっと安心感はあるかなと思います。

高橋：はい、ありがとうございます。アイデンティティーの話はね、だいぶ出てきたんだけど。これはもしかしたら外国につながる子ども、若者のある意味考える特権かもしれないですよね。日本の子どもたちは、若者はやっぱりなかなか考える機会ないので、そういった意味だと日本の人たちに何かアイデンティティーとか、ちょっとメッセージあったら。

サード：そうですね、自分はアイデンティティーを考え始めたときは、日本でアイデンティティーをすごく強調している方は何か少ないかなと思います。普段の生活を過ごす上でアイデンティティーという言葉を聞くことが少ないですよね。しかし、外国から日本に来ると、元は母国なのに日本に来ているので、よく日本の文化に染まってしまうことが多いですよね。なので、外国人にとってはちょっと強く強調することは多いかなと思います。

高橋：はい、ありがとうございます。では、私たちの発信に興味、関心を持って実践してほしい。佐々木さん。

佐々木：はい、そうですね、まずこの場で自分たちの発表ができていることはすごく感謝をします。残念ながらまだまだ自分の悩みを抱えている外国につながる子どもたち、あるいは昔悩みを抱えていた外国人の子どもたちは、こういうような場で発信することなかなかできません。私たちが本当に後輩たちのために今まで活動してきて、その困っていることを吸い上げてこの場で発信することがすごく大事だと思います。

先ほども私の発表の中でも言いましたが、**私たちの存在は、まだまだ多くの方々に知られていないということが、すごく問題だと思います**。こういった発信を通して皆さんにどんどんわれわれのことに興味、関心を持ってもらい、もし周りに同じような子どもがいたら、ぜひ実践してほしいなということで、すごく皆さんにお願いしたいです。以上です。

高橋：はい、ありがとうございます。実践して欲しいってね。佐々木さんの話の中にネガティブなこととか、不本意で日本に来たとかというところがあって、そういう子ども、若者に対して関心を持って実践をして欲しいです。どこかのタイミングでそこから脱することができたと思います。自分自身も、とっても、ネガティブだったとこがありますよね。

佐々木：はい。

高橋：どこかでやっぱりそれを、自分も日本でやっていこうとか、いろいろ考える機会があると思いますが、どの辺がその転換点でしたか。

佐々木：そうですね、やっぱり常に私が恵まれている人だなってすごく思っています。周りの人たちのフォローをいつもしてくれて、その人たちのフォローがあったからこそ今日までここまで来たわけです。**周りのサポートがあるかないかによって、結構日本にいる外国につながる子どもたちの人生が変わっていくんだなって、すごく実感しています。これからもっと困っている子どもたちを助けていきたいなということで、すごく考えております**。はい、以上です。

高橋：はい、ありがとうございます。次は「夢を諦めないで頑張って欲しい、生徒の皆さん」を愛紗さんお願いします。

愛紗：はい、外国人だから自分には無理なのではないかって自分自身が子どもから思うことがすごく多くて、周りにいる外国籍の生徒もそんな感じの人がたくさんいて、私も何度も夢を諦めそうになったことがありました。

私が好きな言葉があって、微力だけど無力じゃないという言葉で、自分が今ここにいるのも自分の可能性を信じて頑張ってみようって思ったからで、**高校生にも自分の夢があるなら一生懸命頑張ってほしいし、私も高校生たちのロールモデルになるように頑張るので一緒に頑張りましょう**。以上です。

高橋：はい、ありがとうございました。じゃあ最後、バレンさんね。在県制度の設置とサポートに感謝します。そしてさらなる制度の充実化を願っています。

バレン：はい、私は在県制度の設置とサポートに関わった皆さま、本当にありがとうございます。おかげさまで私たち多文化ユースプロジェクトがこうして活動もできていて、あとこうして皆さまの前に発表することができました。そして今までさらなる**ビザや奨学金制度を充実化させることによって、今まで進学したいところに行けなかった生徒が、進学できるようになる**と私は考えています。

高橋：はい、ありがとうございました。ちょっと時間をオーバーしておりますので。すごくね、まだまだ聞きたいところですが、時間になりましたので、どうもありがとうございました。

当時投影した資料です。

進路ガイダンス

高校生向け進路ガイダンス 2018

神奈川県の外国ルーツの学生が後輩のために作った
「多文化ユースプロジェクト」活動報告
OG・OBメンバーが後輩に伝える
「日本での立ち位置と生き方」の共有

多文化ユースプロジェクト

若者交流の場「オルタボイス」

オルタボイスキャンプ 2015

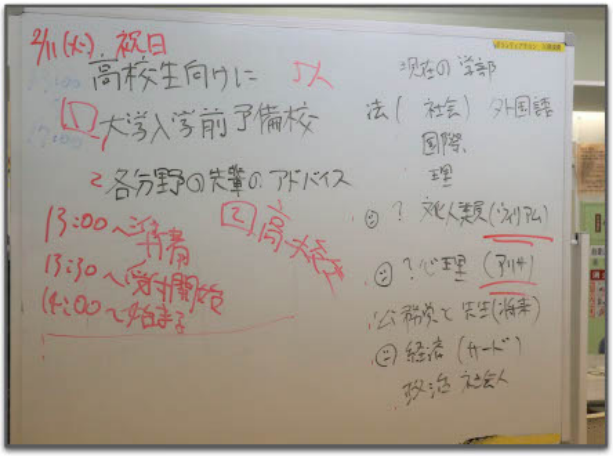
オルタボイスキャンプ 2015

オルタボイスフェスタ 2019

神奈川県の外国ルーツの学生が後輩のために作った
「多文化ユースプロジェクト」活動報告
OG・OBメンバーが後輩に伝える
「日本での立ち位置と生き方」の共有

多文化ユースプロジェクト

みんなで集まって考えた…



多文化ユースプロジェクト ミーティングの様子

しゃべり場

第一回しゃべり場 2018

第二回しゃべり場 2019

神奈川県の外国ルーツの学生が後輩のために作った
「多文化ユースプロジェクト」活動報告
OG・OBメンバーが後輩に伝える
「日本での立ち位置と生き方」の共有

多文化ユースプロジェクト

なぜはじめたのか

私たちの悩みの変化

□ なぜ？
＜その理由＞
・日本語の習得
・進学
・就職
・家庭を持つ

□ それぞれの悩みに対応/相談できる相手が多文化ユースプロジェクトであってほしい

なぜはじめたのか

つながりを持つ大切さ

□ 卒業して社会に埋もれている
「外国につながる（元）子どもたち」
↓
「多文化ユース」という新しいかたちでつながりを持ってほしい
↓
同世代とのヨコのつながり
先輩後輩でのタテのつながり

後輩たちとのかかわりで気づいたこと

鶴見総合高校の先輩の話を聞く会

□ 日本語をはじめとした勉強の意欲後退
＜考えられる要因＞
・不本意な来日
・日本語の必要性を感じない
・家庭環境に恵まれていない
・在留資格による不安定な生活

□ 将来（進路）について考えることのネガティブ性

神奈川県の外国ルーツの学生が後輩のために作った
「多文化ユースプロジェクト」活動報告
OG・OBメンバーが後輩に伝える
「日本での立ち位置と生き方」の共有

多文化ユースプロジェクト

後輩たちとのかかわりで気づいたこと

学校の課題

□ 週２日で学校の通訳をやってみて

・通訳に任せきりの印象が大きい
・通訳が生徒をサポート　×
　学校と通訳で生徒をサポート　◎

□ アイデンティティの再認識

・母国の文化を忘れてしまう
　例）名前変更、宗教（お祈りの時間）

アイデンティティに悩む

自分らしく生きる

□ 小学生の頃
「自分の国に帰れ」と言われる

□ 高校生の頃
日本人？ 外国人？
私は何人（なにじん）？

□ 私の結論
私は、ペルー人であり、日本人であり
パキスタン人でもある

進路について

高校生向け進路ガイダンス 2019

□ 外国籍という理由で就けない職業や
参加できないボランティアがある

□ 多文化ユースの先輩たちの体験談
↓
「私たちにも希望がある」と知ってほしい

□ 生徒の頑張りだけでなく
国や県のサポートも必要不可欠

公務員になってわかったこと

☐ 外国につながる子どもや大人たちの現状を知らない公務員が多い

☐ お客様からの差別

窓口や電話対応時、差別的な発言をされることがある

↓

フォローしてくれる同僚・先輩の存在

「普通に生きる」とは何か

横浜清陵高校の先輩の話を聞く会

☐ どう生きたいのか

・考える機会の創出
・選択肢の有無

☐ 社会の受け入れ

・認知度
　そもそも私たちはどんな存在？
・働いてみての話

コロナ困窮者のための食料支援

ME-netに協力、食料支援の様子

神奈川県の外国ルーツの学生が後輩のために作った「多文化ユースプロジェクト」活動報告
OG・OBメンバーが後輩に伝える「日本での立ち位置と生き方」の共有

多文化ユースプロジェクト

人気記事 (公開順)

「日本に居住する外国につながる若者に対するコロナウィルスの影響」のアンケートの結果報告

外国につながる高校生のための進路まとめ

外国にルーツをもつ生徒対象の入試一覧

本団体を運営する上での課題

コロナ禍

- 開催予定のイベントが中止
- オンラインでの活動連携の難しさ

時間

- メンバーは学業等に忙しく、両立が厳しい
- 手動でふりがなをふる作業は時間がかかる

コンテンツの可読性

- 多言語に対応していない
- ふりがなが無く、来日したばかりの生徒が読むには難しい

Icons made by Uniconlabs from www.flaticon.com

進路体験を公開するまでの流れ

依頼 外国につながる大学生、短大生、専門学生等に協力依頼

記入 GoogleDocsのリンクを送って各項目に記入してもらう

編集 独自開発したシステムで多言語・ふりがなを自動化→編集

公開 進学先別・来日時期別に整理→公開

Icons made by Uniconlabs from www.flaticon.com

神奈川県の外国ルーツの学生が後輩のために作った
「多文化ユースプロジェクト」活動報告
OG・OBメンバーが後輩に伝える
「日本での立ち位置と生き方」の共有

独自システム メイン機能（自動ふりがな）

編集前　自動ふりがなのみ

ruby

{明日|あした}、{色紙|いろがみ}を{持|も}って{故郷|こきょう}に{帰|かえ}ります。

ユーザー編集エリア

あした　いろがみ　も　こきょう　かえ
明日、色 紙を持って故 郷に帰ります。

表示エリア

編集後　あした → あす　いろがみ → しきし　こきょう → ふるさと

ruby

{明日|あす}、{色紙|しきし}を{持|も}って{故郷|ふるさと}に{帰|かえ}ります。

ユーザー編集エリア

あす　しきし　も　ふるさと　かえ
明日、色紙を持って故 郷に帰ります。

表示エリア

言語選択の割合

日本語	英語	中国語	その他
75.1%	11.9%	7.1%	5.9%

私たちの願い

- ☐ 「なぜそう思う？」をもっと聞いて欲しい🙏 支援者の皆さん
- ☐ アイデンティティーを忘れないで🙏 生徒の皆さん
- ☐ 私たちの発信に興味関心をもって実践して🙏 全ての皆さん
- ☐ 夢を諦めないで頑張ってほしい🙏 生徒の皆さん
- ☐ 在県制度の設置とサポートに感謝します
  そして、さらなる制度の充実化を願っています